

## ラグビーの青少年期の人間形成に対する寄与に関する一考察

A study on the contribution for youth's human building by rugby

1K06B023

指導教員 主査 吉永 武史先生

石田 啓太

副査 友添 秀則先生

### 【序章】

私は 10 年間ラグビーを行い、様々な経験をしてきた。その中で興味がわいたものがラグビーの持つ教育的価値についてである。主に目的はラグビーの有効性を明確にすること、そして教育的なラグビーの指導について把握することである。ラグビーを含むスポーツ教育的側面と非教育的側面を理解し、ラグビーは人間形成において有効かを考察した。

### 【第 1 章】

現代の青少年が抱える問題は社会現象にもなっており、非常に深刻な事態となっている。文部科学省ではこのような青少年の教育環境について日々検討しており、教育振興計画やスポーツ振興計画などの改革を実施している。そこでは運動部活動が青少年の課題解決に有効であり今後の役割も重要であると考えられていることが分かった。つまり、運動部活動に加入する青少年が増えれば、社会問題となっている青少年の社会適応能力の低下や体力の低下を解消することが出来ると考えられる。

### 【第 2 章】

青少年が行う集団スポーツが社会的スキル習得において、有効であることが明らかになった。スポーツをすることで青年期の体力向上に不可欠な筋力、全身持久力、調整力、柔軟性などを養うことが出来る。また、青少年期の自我同一性形成に役立つと考えられるということも述べた。つまり、集団スポーツをすることは青

少年期に必要である社会的スキルの形成、体力の向上、自我同一性形成に非常に有効であるということが分かった。

### 【第 3 章】

ラグビーの競技的特性は、ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワンの精神やノーサイドの精神に準ずるものである。この結果が全てではないという考えは青少年の豊かな感性を育むものであると考えられる。ただラグビー指導においてそういうことを体現している指導者は少なく、勝利至上主義になってしまうラグビー指導者が多くいる。ラグビーを通して青少年が人間として根源的な人間性豊かな人生観を持つことが可能であるならば、ラグビー指導者はその要因を明らかにするとともに、今後はさらに、そのための具体的な方法論を導き出さなければならない。

### 【結章】

ラグビーはフェアプレーの精神を貫くことで、人間形成に役立つ可能性がある。フェアプレーの精神は、選手だけでなく指導者からの影響も大きい。特にラグビーはフェアプレーを重んじるスポーツであり、ノーサイドの精神、ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワンの精神に準じている。このようにラグビーは多くの教育的側面を持つが、極度な勝利至上主義になってしまうと、非教育的側面を多く持つことがある。現在のラグビー指導者は知的部分の鍛錬を怠りがちである。ラグビーを人間形成に役

立たせるためには、ラグビー指導者が本論文で  
取り上げたようなラグビーの特徴を理解する必  
要があり、指導現場において、ラグビーの歴史、  
ルール、フェアプレー、怪我の予防、栄養の管  
理などの知識の習得過程を取り入れる必要があ  
ると考えられる。